

# 稲作管理特報

令和5年7月7日  
入善産米品質向上対策本部  
黒東地域農業技術者協議会

コシヒカリの生育は、草丈がやや長め、㎡当たり茎数がほぼ平年並み、葉色がやや淡めに推移しています。幼穂形成期は、5月11日頃の田植えで、7月10日頃の見込みです。

穂肥は、葉色・幼穂長などの生育状況を確認して施用しましょう。

## 【コシヒカリの生育状況（みな穂管内）】

	田植日	6月27日				7月4日				幼穂形成期		
		草丈 cm	茎数		葉齢	葉色	草丈 cm	茎数			葉齢	葉色
			本/株	本/㎡				本/株	本/㎡			
R05	5/11	53.5	26.4	507	10.6	4.1	64.4	23.3	478	11.4	4.0	7/10
平年	5/12	50.2	24.9	511	10.5	4.2	60.5	24.2	497	11.3	4.1	7/11

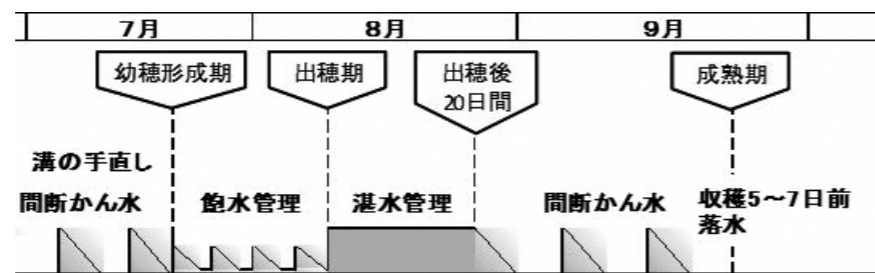
## 1. これからの水管理・・・暑い時こそ水管理が重要！

①出穂期まで：飽水管理を徹底し、稲の活力維持に努めましょう。  
 ※飽水管理：入水の間隔を短くし、常に足跡や溝に水が残るくらいの状態を保ちましょう。  
 ただし、4日以上、水が滞っていたら落水しましょう。

②出穂後：20日間は、田面が出ない程度の湛水管理を行いましょう。  
 ・水をためっぱなしにせず、地域の用水事情に応じて、水の入替えを実施しましょう。  
 かけ流しは絶対に行わない。

③湛水管理終了後～刈取り7日前まで：間断かん水で、稲の活力維持に努めましょう。

### ○今後の水管理



## 2. 斑点米カメムシ類対策・・・草刈りと適期の防除で斑点米の発生を防止！

- 一斉草刈り後は、雑草の穂が出ないように管理しましょう。  
 注 草刈り時の農作業事故や熱中症に注意しましょう。
- 適期の防除で効果を高めましょう。なお、コシヒカリの一斉防除予定については、後日、防除特報を発行します。  
 ※無人ヘリコプターの防除計画については、折込みチラシなどで別途ご案内します。

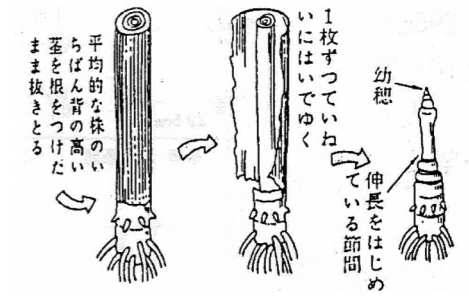
高温でも夏バテしないよう水管理をこまめに行いましょう！

## 3. コシヒカリの穂肥【幼穂形成期の生育量の目安】

幼穂2ミリ確認時（7月10日頃）		
草丈	茎数	葉色
72cm	470本/㎡	3.8

### ▷幼穂長からみた出穂前日数の目安

出穂前日数	22日前頃	20日前頃	15日前頃	10日前頃	7日前頃
幼穂長	2mm	5mm	1.5cm	10cm	13cm



### 【基肥一発肥料の場合】

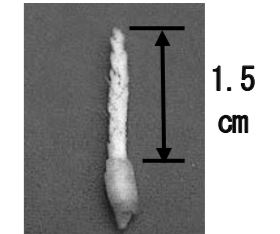
穂揃期の葉色が淡いと、登熟期に高温となった場合、収量や品質が低下する恐れがあります。出穂7日前（7月24日頃）に、葉色が4.0（洪積土3.8）未満の場合は、追肥3号で5～7kg/10a施用しましょう。

### 【分施肥体系（基肥206号）の場合】

- 1回目の穂肥は、必ずほ場ごとに幼穂長・草丈・葉色を確認して施用しましょう。
- 2回目の穂肥は、粒の肥大を良くし、米の品質低下を防ぐ効果があるため、確実に施用しましょう。

<穂肥施用の目安>（幼穂形成期：7月10日頃 出穂期：8月1日頃）

穂肥		第1回目	第2回目
草丈		82cm	-
施用時	幼穂長	1.5cm	1.3cm程度
	葉色	3.6	4.0
施肥時期		7月17日頃	1回目の7日後
肥料名		追肥3号	
施肥量		10kg/10a	12kg/10a



1回目穂肥施用時の幼穂

- ※1回目穂肥時の葉色が「3.8～4.0」のほ場では、施用時期を2～3日遅くするか、施肥量を7割程度に減らしましょう。
- ※葉色が「4.0」より濃いほ場では、1回目は施用しないでください。

### 地力増進作物を組み入れ、肥料コストの軽減を図りましょう。

（例）大麦跡 → クロタラリア（6-9月） → 水稻（4-9月）で、**基肥減肥最大5割！**  
 ・作物を栽培する予定のない大麦跡ほ場には、夏作緑肥を作付けし、地力の向上で肥料コスト低減を目指しましょう。斑点米カメムシの発生源となる雑草地対策にもなります  
 ・マメ科作物（クロタラリア）は、根粒により空中窒素を固定するため、窒素濃度が高く、後作物の窒素供給源として効果的です。

★JA みな穂営農情報メールを配信しています。  
 下のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

主な情報提供内容
 ・ 水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理  
 ・ 気象情報と災害防止の対策